

「立春」という節目の時を迎えます。

「鬼は外、福は内」と幸せを祈る節分の日がやって来ます。

人生の節目を「成長のポイント」と大切に感じ、今年度のしめくりへと進みます。

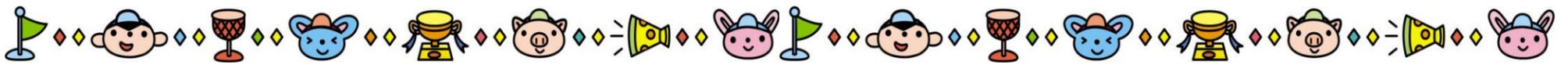
長引くコロナ禍の中で青帽子のゆめ組さんは丸三年過ごしてきました。

多くの制限の中においても工夫しつつ園生活の中で心を満たして来ました。

まもなく巣立ちの日、卒園の日を迎えようとしています。運動会のサブテーマに上げました様に

「無限の可能性のある子ども達！多くの人とつながって生きていこう」です。

残り少なくなった園生活を一日一日大切に過ごし、「春」の訪れを待ちたいと思います。



～アドラーより～

子どもの課題を共同の課題にする(1)

子どもの課題は、本来は子どもが自分の力で解決しなければならないものですし、親が口を出したり手伝ったりしてはいけないものです。しかし、子どもの課題を親子の<共同の課題>にして、親が手伝うことができる場合が3つあります。

この章では、そのうち2つを学んで、もうひとつの場合は第5章で学びます。

1. 子どもから親に頼んできたとき

子どもの課題は、原則としては子ども自身に解決してもらうことが望ましいのです。もし自力でうまく解決できれば、子どもは「私は能力がある」と感じるでしょう。かわりに親が解決してしまえば、子どもは「私は能力がない」と感じてしまうかもしれません。しかし、子どもが自分の力だけで課題を解決できない場合もあります。そのような場合、もし子どもが

はっきりと言葉で「手伝ってよ」と頼んできれば、親は手伝ってあげることができます。たとえば、「学校の宿題がわからない」というのは、その結末が子どもの身にだけふりかかりますから、子どもの課題です。しかし、子どもが「宿題がわからない。手伝って」と相談してきたら、子どもの話をよく聴いた上で、お手伝いしてあげることができます。

2. 言葉ではっきり頼まれてから手伝う

子どもは自分の課題を解決できないのだが、言葉で頼まないで、ただ手伝ってほしいようなそぶりをするだけだったりするときには、言葉ではっきりと頼んでくれるまで、手伝わない方がいいと思います。

場合によっては、「なにかお手伝いできることはありますか？」と尋ねてみるのもいいでしょう。そうして、子どもが「手伝って」と言えば、手伝ってあげますし、なにも言わないか、あるいは「手伝わなくてもいい」と言えば、子どもにまかせます。

3. 引き受けることも断わることもできる

子どもが頼んできたからといって、絶対に引き受けなければならないものではありません。場合によっては、断わることもできます。また、部分的には引き受けて、部分的には断わるというようなこともできます。引き受けるとしても、どの程度手伝うのか、どういうことは手伝わないのかを、事前によく話し合っておきます。